【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成27年1月9日

【四半期会計期間】 第9期第3四半期(自 平成26年9月1日 至 平成26年11月30日)

【会社名】 DCMホールディングス株式会社

【英訳名】 DCM Holdings Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長執行役員 久田 宗弘 【本店の所在の場所】 東京都品川区南大井六丁目22番7号

【電話番号】 (03)5764-5211(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員財務統括部長 鎌田 清孝

【最寄りの連絡場所】 東京都品川区南大井六丁目22番7号

【電話番号】 (03)5764-5211(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員財務統括部長 鎌田 清孝

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所

(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | | 第8期 第3四半期連結 累計期間 | 第9期 第3四半期連結 累計期間 | 第8期 |
|----------------------------|-------|------------------------------------|------------------------------------|-----------------------------------|
| 会計期間 | | 自平成25年 3月1日 至平成25年 11月30日 | 自平成26年 3月1日 至平成26年 11月30日 | 自平成25年 3月1日 至平成26年 2月28日 |
| 営業収益 | (百万円) | 330,901 | 331,081 | 434,190 |
| 経常利益 | (百万円) | 14,223 | 14,633 | 16,526 |
| 四半期(当期)純利益 | (百万円) | 8,340 | 8,579 | 10,216 |
| 四半期包括利益又は包括利益 | (百万円) | 9,296 | 8,891 | 10,744 |
| 純資産額 | (百万円) | 150,266 | 156,107 | 151,743 |
| 総資産額 | (百万円) | 357,483 | 354,668 | 333,937 |
| 1株当たり四半期(当期)純利 益 | (円) | 59.51 | 62.27 | 73.14 |
| 潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益 | (円) | - | - | - |
| 自己資本比率 | (%) | 42.0 | 44.0 | 45.4 |

| 回次 | | 第8期 第3四半期連結 会計期間 | 第9期 第3四半期連結 会計期間 |
|-------------|-----|------------------------------------|------------------------------------|
| 会計期間 | | 自平成25年 9月1日 至平成25年 11月30日 | 自平成26年 9月1日 至平成26年 11月30日 |
| 1株当たり四半期純利益 | (円) | 14.24 | 12.99 |

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載して おりません。
 - 2. 営業収益の金額には、消費税等は含まれておりません。
 - 3.潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。 また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済対策、金融政策を背景に緩やかな回復基調が 見られましたが、新興国の成長鈍化、欧州情勢による景気下振れリスクなど、先行きについては不透明な状況が続いております。

小売業界におきましても、消費税増税や円安による物価上昇などにより個人消費は低迷しており、依然として厳 しい経営環境にあります。

このような状況のもと、当社グループでは、新規出店については19店舗、退店については4店舗を実施いたしました。また、(株)ホームエキスポ子会社化により6店舗、フジタ産業株)からの店舗譲受けにより3店舗増加したことにより、当連結会計期間末日現在の店舗数は556店舗(カーマ146店舗、ダイキ161店舗、ホーマック249店舗)となりました。

販売面においては、3月は駆け込み需要による影響で日用消耗品を中心に好調に推移しましたが、増税後は反動により売上は伸び悩み、また天候不順による影響などから、季節商品の販売が低迷しました。このようななか、工具、資材については、販売強化に取り組んだこともあり売上は堅調に推移しました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における営業収益は3,310億8千1百万円(前年同期比100.1%)、営業利益は149億8百万円(前年同期比104.3%)、経常利益は146億3千3百万円(前年同期比102.9%)、四半期純利益は85億7千9百万円(前年同期比102.9%)となりました。

なお、セグメントごとの業績については、「第4[経理の状況]1[四半期連結財務諸表]注記事項(セグメント情報等)」をご覧下さい。

(2) 主要商品部門別の状況

園芸・エクステリア部門

夏は天候不順により、よしずや散水用品などの季節商品の販売が伸び悩みましたが、春、秋については天候・気温に恵まれたこともあり、除草剤や肥料、用土等の園芸用品の販売が好調でした。その結果、売上高は561億2千5百万円となりました。

ホームインプルーブメント部門

工具、資材については、消費税増税前の駆け込み需要の反動は小さく、専門店や大型店を中心に売上は堅調に推移しました。その結果、売上高は593億6千7百万円となりました。

ホームレジャー・ペット部門

消費税増税後は自転車の販売が伸び悩みましたが、健康志向の高まりにより、健康器具の販売は好調に推移しました。その結果、売上高は502億4千9百万円となりました。

ハウスキーピング部門

消費税増税前の駆け込み需要により、紙製品や洗剤など日用消耗品を中心に非常に好調でしたが、増税後はその 反動により売上は伸び悩みました。その結果、売上高は890億5千1百万円となりました。

ホームファニシング部門

消費税増税前の駆け込み需要と新生活需要が重なり、カーテンやラグなどの販売が好調でしたが、夏の天候不順により、すだれなどの季節商品の販売が伸び悩みました。その結果、売上高は248億1千7百万円となりました。

ホームエレクトロニクス部門

消費税増税前の駆け込み需要がありましたが、増税後はその反動により、調理家電や住宅設備などの販売が伸び悩みました。また、季節商品の扇風機や石油ストーブの販売も低調に推移しました。その結果、売上高は320億5千4百万円となりました。

EDINET提出書類 D C Mホールディングス株式会社(E03489) 四半期報告書

(3)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数 (株) | |
|------------------|--------------|--|
| 普通株式 600,000,000 | | |
| 計 | 600,000,000 | |

【発行済株式】

| 種類 | 第 3 四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成26年11月30日) | 提出日現在発行数(株) (平成27年1月9日) | 上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名 | 内容 |
|------|---|----------------------------|------------------------------------|-----------|
| 普通株式 | 139,808,949 | 139,808,949 | 東京証券取引所市場第一部 | 単元株式数100株 |
| 計 | 139,808,949 | 139,808,949 | - | - |

(2)【新株予約権等の状況】 該当事項はありません。

- (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】 該当事項はありません。
- (4)【ライツプランの内容】 該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式総 数増減数 (千株) | 発行済株式総 数残高 (千株) | 資本金増減額 (百万円) | 資本金残高 (百万円) | 資本準備金増 減額 (百万円) | 資本準備金残 高 (百万円) |
|---------------------------|------------------------|-----------------------|--------------|----------------|-----------------------|----------------------|
| 平成26年9月1日~ 平成26年11月30日 | - | 139,808 | - | 10,000 | - | 118,787 |

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成26年8月31日)に基づく株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

平成26年8月31日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|------------------|-----------|----|
| 無議決権株式 | - | - | - |
| 議決権制限株式(自己株式等) | - | - | - |
| 議決権制限株式(その他) | - | - | - |
| 完全議決権株式(自己株式等) | 普通株式 1,400 | - | - |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 139,435,800 | 1,394,358 | - |
| 単元未満株式 | 普通株式 371,749 | - | - |
| 発行済株式総数 | 139,808,949 | - | - |
| 総株主の議決権 | 1 | 1,394,358 | - |

- (注) 1.「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が400株含まれております。 また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数4個が含まれており ます
 - 2.「完全議決権株式(自己株式等)」の欄には、「従業員持株 E S O P 信託」が所有する当社株式は含まれておりません。

【自己株式等】

平成26年8月31日現在

| 所有者の氏名又は名称 | 所有者の住所 | | 他人名義所有 株式数(株) | 所有株式数の 合計(株) | 発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%) |
|----------------------|-------------------|-------|---------------|-----------------|--------------------------------|
| D C Mホールディング ス(株) | 東京都品川区南大井六丁目22番7号 | 1,400 | 1,423,100 | 1,424,500 | 1.01 |
| 計 | - | 1,400 | 1,423,100 | 1,424,500 | 1.01 |

(注)1.他人名義で所有している理由等

従業員インセンティブ・プラン「従業員持株 E S O P 信託」の信託財産として、日本マスタートラスト信託銀行株式会社(従業員持株 E S O P 信託口・75429口)が所有しております。

2. 当第3四半期会計期間末日現在の自己株式数は2,502,071株であります。また、この他に当第3四半期における四半期連結財務諸表において、自己株式として処理している従業員持株ESOP信託口所有の当社株式が1,337,500株あります。

2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2.監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成26年9月1日から平成26年11月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成26年3月1日から平成26年11月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

| | 前連結会計年度 (平成26年 2 月28日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成26年11月30日) |
|-------------|---------------------------|-------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 12,049 | 17,617 |
| 受取手形及び売掛金 | 4,098 | з 6,721 |
| リース投資資産 | 2,417 | 2,380 |
| 商品 | 81,980 | 85,058 |
| 繰延税金資産 | 1,296 | 1,797 |
| その他 | 6,343 | 6,334 |
| 貸倒引当金 | 0 | 27 |
| 流動資産合計 | 108,184 | 119,881 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物 | 163,550 | 173,352 |
| 減価償却累計額 | 92,279 | 95,222 |
| 建物及び構築物(純額) | 71,270 | 78,129 |
| 土地 | 73,711 | 75,510 |
| リース資産 | 8,844 | 9,759 |
| 減価償却累計額 | 982 | 1,336 |
| リース資産(純額) | 7,862 | 8,423 |
| 建設仮勘定 | 1,897 | 1,555 |
| その他 | 25,839 | 28,021 |
| 減価償却累計額 | 19,447 | 21,366 |
| その他(純額) | 6,392 | 6,655 |
| 有形固定資産合計 | 161,135 | 170,273 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | - | 1 17 |
| 借地権 | 5,918 | 6,160 |
| ソフトウエア | 3,397 | 3,214 |
| その他 | 201 | 204 |
| 無形固定資産合計 | 9,517 | 9,598 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 8,605 | 9,123 |
| 敷金及び保証金 | 41,061 | 40,707 |
| 繰延税金資産 | 1,371 | 1,102 |
| 長期前払費用 | 2,942 | 2,939 |
| その他 | 1,178 | 1,102 |
| 貸倒引当金 | 59 | 61 |
| 投資その他の資産合計 | 55,099 | 54,913 |
| 固定資産合計 | 225,752 | 234,786 |
| 資産合計 | 333,937 | 354,668 |

| | | (十位・口/川コ) |
|---------------|---------------------------|-------------------------------|
| | 前連結会計年度 (平成26年 2 月28日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成26年11月30日) |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 金 掛置 | 44,613 | з 66,345 |
| 短期借入金 | 50,300 | 22,000 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 17,359 | 21,109 |
| リース債務 | 208 | 242 |
| 未払法人税等 | 3,055 | 3,613 |
| 繰延税金負債 | - | 9 |
| 賞与引当金 | 1,522 | 2,746 |
| ポイント引当金 | 365 | 444 |
| その他 | 10,601 | з 17,152 |
| 流動負債合計 | 128,026 | 133,665 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 34,934 | 45,125 |
| リース債務 | 8,470 | 9,207 |
| 繰延税金負債 | 796 | 770 |
| 再評価に係る繰延税金負債 | 209 | 207 |
| 退職給付引当金 | 52 | 58 |
| 資産除去債務 | 1,337 | 1,416 |
| 長期預り金 | 5,362 | 5,279 |
| 負ののれん | 1 65 | - |
| その他 | 2,940 | 2,829 |
| 固定負債合計 | 54,166 | 64,895 |
| 負債合計 | 182,193 | 198,560 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 10,000 | 10,000 |
| 資本剰余金 | 41,603 | 41,603 |
| 利益剰余金 | 101,265 | 107,081 |
| 自己株式 | 646 | 2,412 |
| 株主資本合計 | 152,221 | 156,272 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 1,455 | 1,746 |
| 繰延ヘッジ損益 | 8 | 15 |
| 土地再評価差額金 | 1,925 | 1,928 |
| その他の包括利益累計額合計 | 478 | 165 |
| 純資産合計 | 151,743 | 156,107 |
| 負債純資産合計 | 333,937 | 354,668 |
| | | <u> </u> |

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年11月30日) | 当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成26年 3 月 1 日 至 平成26年11月30日) |
|-----------------|--|--|
| 売上高 | 326,523 | 326,579 |
| 売上原価 | 229,445 | 226,619 |
| 売上総利益 | 97,077 | 99,960 |
| 営業収入 | | |
| 不動産賃貸収入 | 4,378 | 4,501 |
| 営業総利益 | 101,455 | 104,461 |
| 販売費及び一般管理費 | 87,166 | 89,553 |
| 営業利益 | 14,289 | 14,908 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 193 | 179 |
| 受取配当金 | 181 | 139 |
| 為替差益 | 277 | 187 |
| その他 | 371 | 381 |
| 営業外収益合計 | 1,024 | 887 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 982 | 1,025 |
| 支払手数料 | 102 | 114 |
| その他 | 5 | 22 |
| 営業外費用合計 | 1,090 | 1,162 |
| 経常利益 | 14,223 | 14,633 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 1 | 0 |
| 受取補償金 | - | 17 |
| 退職給付制度終了益 | 103 | - |
| 国庫補助金 | 36 | - |
| 特別利益合計 | 141 | 17 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除売却損 | 335 | 298 |
| 減損損失 | 99 | 48 |
| その他 | 67 | 42 |
| 特別損失合計 | 501 | 388 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 13,862 | 14,262 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 5,118 | 6,087 |
| 法人税等調整額 | 403 | 404 |
| 法人税等合計 | 5,521 | 5,682 |
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 8,340 | 8,579 |
| 四半期純利益 | 8,340 | 8,579 |
| | | |

【四半期連結包括利益計算書】 【第3四半期連結累計期間】

| | | (1 : [|
|-----------------|--|--|
| | 前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年11月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年11月30日) |
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 8,340 | 8,579 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 957 | 291 |
| 繰延へッジ損益 | 1 | 23 |
| 土地再評価差額金 | - | 2 |
| その他の包括利益合計 | 955 | 312 |
| 四半期包括利益 | 9,296 | 8,891 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 9,296 | 8,891 |
| 少数株主に係る四半期包括利益 | - | - |

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 のれん及び負ののれんの表示

のれんは相殺後の純額で表示しております。

内訳は次のとおりであります。

| | 前連結会計年度 (平成26年 2 月28日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成26年11月30日) |
|-------|---------------------------|-------------------------------|
| のれん | - 百万円 | 58百万円 |
| 負ののれん | 65 | 40 |

2 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関からの借入れ等に対し、債務保証を行っております。

| 前連結会計年度 (平成26年 2 月28日 | | 当第 3 四半期連結会計期間 (平成26年11月30日) | | |
|--------------------------|--------|---------------------------------|---------|--|
| ダイキ・ファンディング・ コーポレーション | 270百万円 | ダイキ・ファンディング・ コーポレーション | 202百万円 | |
| 荒尾シティプラン(株) | 391 | 荒尾シティプラン(株) | 344 | |
| ㈱カーヤ | 15 | (株)カーヤ | 25 | |
| 計 | 676 | 計 | 571 | |

3 四半期連結会計期間末日満期手形等

四半期連結会計期間末日満期手形及び四半期連結会計期間末日確定期日現金決済(手形と同条件で手形期日に 現金決済する方式)の会計処理については、手形交換日及び出金日をもって決済処理をしております。なお、当 四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形等が四半期連結 会計期間末日残高に含まれております。

| | 前連結会計年度 (平成26年 2 月28日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成26年11月30日) |
|-----------|---------------------------|-------------------------------|
| 受取手形及び売掛金 | - 百万円 | 10百万円 |
| 買掛金 | - | 12,987 |
| その他(流動負債) | - | 214 |

4 コミットメントライン契約

当社では資金調達の安定性を高めるため、取引銀行3行とコミットメントライン契約を締結しております。この契約に基づく借入未実行残高は、次のとおりであります。

| | 前連結会計年度 (平成26年 2 月28日) | 当第 3 四半期連結会計期間 (平成26年11月30日) |
|---------------|---------------------------|---------------------------------|
| コミットメントラインの総額 | - 百万円 | 15,000百万円 |
| 借入実行残高 | - | - |
| | - | 15,000 |

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)、負ののれん償却額は、次のとおりです。

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年11月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年11月30日) |
|----------|--|--|
| 減価償却費 | 7,827百万円 | 8,092百万円 |
| 負ののれん償却額 | 18 | 23 |

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年3月1日 至 平成25年11月30日)

1.配当に関する事項

配当金支払額

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり 配当額 (円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|------------------------|-------|-----------------|---------------------|--------------|--------------|-------|
| 平成25年 5 月23日 定時株主総会 | 普通株式 | (注1) 1,406 | 10.0 | 平成25年 2 月28日 | 平成25年 5 月24日 | 利益剰余金 |
| 平成25年 9 月27日 取締役会 | 普通株式 | (注2) 1,408 | 10.0 | 平成25年8月31日 | 平成25年11月 5 日 | 利益剰余金 |

- (注)1.配当金の総額には、ESOP信託口が所有する自己株式への配当金19百万円は含めておりません。
 - 2.配当金の総額には、ESOP信託口が所有する自己株式への配当金17百万円は含めておりません。

2. 株主資本の金額の著しい変動

自己株式の取得

当社は、平成25年9月27日開催の取締役会における自己株式の取得に関する決議に基づき、自己株式取得を行いました。これにより、自己株式が1,841百万円増加しております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成26年3月1日 至 平成26年11月30日)

1.配当に関する事項

配当金支払額

| (決議) | 株式の種類 | 配当金の総額 (百万円) | 1株当たり 配当額 (円) | 基準日 | 効力発生日 | 配当の原資 |
|------------------------|-------|-----------------|---------------------|--------------|--------------|-------|
| 平成26年 5 月29日 定時株主総会 | 普通株式 | (注1) 1,382 | 10.0 | 平成26年 2 月28日 | 平成26年 5 月30日 | 利益剰余金 |
| 平成26年 9 月26日 取締役会 | 普通株式 | (注2) 1,383 | 10.0 | 平成26年8月31日 | 平成26年11月4日 | 利益剰余金 |

- (注)1.配当金の総額には、ESOP信託口が所有する自己株式への配当金16百万円は含めておりません。
 - 2.配当金の総額には、ESOP信託口が所有する自己株式への配当金14百万円は含めておりません。

2.株主資本の金額の著しい変動

自己株式の取得

当社は、平成26年9月26日開催の取締役会における自己株式の取得に関する決議に基づき、自己株式取得を行いました。これにより、自己株式が1,865百万円増加しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年3月1日 至 平成25年11月30日)

1.報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

| | | 報告セグメント | | その他 | 計 | 調整額(注2) | 四半期連結損益 計算書計上額 |
|-----------------------|--------|---------|---------|--------|---------|---------|----------------|
| | カーマ | ダイキ | ホーマック | (注1) | āΙ | | (注3) |
| 営業収益 | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 98,447 | 83,158 | 149,150 | 144 | 330,901 | - | 330,901 |
| セグメント間の内部 売上高又は振替高 | • | 3 | 3 | 35,331 | 35,337 | 35,337 | - |
| 計 | 98,447 | 83,161 | 149,153 | 35,476 | 366,238 | 35,337 | 330,901 |
| セグメント利益 | 4,090 | 1,839 | 7,797 | 6,098 | 19,825 | 5,535 | 14,289 |

- (注) 1. その他は、DCMホールディングス㈱における取引等です。
 - 2. セグメント利益の調整額 5,535百万円には、セグメント間取引消去 5,545百万円、その他10百万円が含まれております。
 - 3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
 - 2.報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報記載すべき事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成26年3月1日 至 平成26年11月30日)

1.報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

| | | 報告セグメント | | その他 | 計 | 調整額 | 四半期連結損益 |
|-----------------------|---------|---------|---------|--------|---------|--------|-------------|
| | カーマ | ダイキ | ホーマック | (注1) | | | 計算書計上額 (注3) |
| 営業収益 | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 100,083 | 81,289 | 149,379 | 328 | 331,081 | - | 331,081 |
| セグメント間の内部 売上高又は振替高 | • | 3 | 2 | 35,867 | 35,874 | 35,874 | - |
| 計 | 100,083 | 81,293 | 149,382 | 36,196 | 366,955 | 35,874 | 331,081 |
| セグメント利益 | 4,507 | 2,318 | 8,069 | 6,081 | 20,976 | 6,068 | 14,908 |

- (注) 1. その他は、DCMホールディングス㈱における取引等です。
 - 2. セグメント利益の調整額 6,068百万円には、セグメント間の取引消去 6,069百万円、その他 0 百万円が含まれております。
 - 3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
 - 2.報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報記載すべき事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| | 前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年11月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年11月30日) |
|--------------------|--|--|
| 1 株当たり四半期純利益 | 59円51銭 | 62円27銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 四半期純利益(百万円) | 8,340 | 8,579 |
| 普通株主に帰属しない金額(百万円) | - | - |
| 普通株式に係る四半期純利益(百万円) | 8,340 | 8,579 |
| 普通株式の期中平均株式数(千株) | 140,171 | 137,776 |

- (注)1.潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
 - 2.期中平均株式数については、従業員持株ESOP信託口が所有する当社株式を自己株式として処理している ことから、当該株式の数を控除して算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成26年9月26日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

- (イ)中間配当による配当金の総額・・・・・・・・・・・・・1,398百万円
- (口)1株当たりの金額・・・・・・・・・・・・・・・10円00銭
- (八)支払請求の効力発生日及び支払開始日・・・・・・・・・・平成26年11月4日
- (注)平成26年8月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行っております。

EDINET提出書類 D C Mホールディングス株式会社(E03489) 四半期報告書

第二部【提出会社の保証会社等の情報】 該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年1月8日

D C Mホールディングス株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 公認会計士 樋 口 義 行 印 業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 轟 一 成 印業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているDCMホールディングス株式会社の平成26年3月1日から平成27年2月28日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成26年9月1日から平成26年11月30日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成26年3月1日から平成26年11月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する 結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠し て四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、DCMホールディングス株式会社及び連結子会社の平成26年11月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1.上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
 - 2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。